



桜満開のはまなす荘



吉田光延 画

発行
 社会福祉法人いわき福音協会
 はまなす荘
 いわき市平中平窪字二堂田2
 〒970-8002 ☎(0246) 8711
 編集責任
 はまなす荘新聞編集委員会

はまなす荘は、指定障害者支援施設で施設入所支援事業と生活介護事業を行っています。

施設入所支援事業では、はまなす荘に入所する障害のある人に対して、主として夜間において、入浴、排せつ及び食事等の介護、生活に関する相談及び助言その他の必要な日常生活上の支援を行っています。

又、生活介護事業では、主として入浴、排せつ及び食事等の介護、調理、洗濯及び掃除等の家事並びに生活等に関する相談及び助言その他の必要な日常生活上の支援、創作的活動又は生産活動の機会の提供その他の身体機能又は生活能力の向上のために必要な援助を行っています。

私たちが一人の障害のある人を支援する時、前段の昼間と夜間の中で、創作的活動や

障害者総合支援法に望むこと

所長：新 妻 登

生産的活動の有無が有る位で、必要な支援がそれほど大きく変わる訳ではありません。しかしながら、その事業に配置させる職員の基準数は、五倍以上の開きがあります。

はまなす荘でも、五十人の利用者に対して、昼間は十五人、夜間は三人という勤務体制で支援を行っています。

平成十五年度に措置から契約制度に変わり、又来年度の「障害者の権利条約」を踏まえた新しい法律「障害者総合支援法」制定を目の前にして、私達が望むことは入所施設において、あたり前の生活が出来るようになってほしいことです。昼間は活動し、夜間夕食後、介護や支援を受けながらもゆっくり入浴し、明日がむかえられる仕組みになる事を願っています。

未だ収まらぬ風評被害の中、見事に咲いている桜に、癒しと元気をもらう。桜の力はスゴイ！この力をもらって今年一年も乗り切りたい。

南限の花

待ちに待った桜の開花。昨年は原発問題で桜を見ている余裕などなかった。だからこそ今年の桜はとて待ち遠しかった。見事に咲き始め、山の緑色の中にピンク色はとて目立ち、その桜を見ると心も体も穏やかな気持ちになる。

はまなす荘の食堂から桜が見える。絶景だ。春の恵みを存分に味わえるごはんと共にその桜を見ながらの食事はより一層美味しくこの時期にしか味わえない贅沢のひとつである。



国際青少年音楽祭 in いわき



三月三日(土)みはま体育館で『国際青少年音楽祭 in いわき』が開催されました。EUジャパンフェスト日本委員会主催により、トゥルク・ミュージック・チェロ・アンサンブル(フィンランド)とソプラノ歌手のニカ・ゴリッチさん(スロベニア)、ピアノニストノの山本麻紀さんが来所し、音楽による復興支援をして下さいました。このコンサートは、はまぎく荘の皆さんや原発事故で四倉町に避難中の東洋学園の皆さんも見学されました。



演奏ではニカさんが山本さんの伴奏でスロベニアの民謡など独唱し、チェロアンサンブルはワグナーなどの作品を披露しました。最後はピアノとチェロアンサンブルを伴奏にニカさんが「上を向いて歩こう」を歌い、参加者も手拍子をしながら一緒に歌いました。また、出演者全員が「ガンバレ東北」と書かれた紙を掲げ、心温まるメッセージを頂きました。ニカさんらは初めての来日で「皆が心温かく、

ここで歌えたこととても良い経験になった」と笑顔で話していました。利用者の方も、外国の方との触れ合いを本当に楽しんでおり、音楽を通してたくさん元気をもたらす、素晴らしい時間を過ごすことが出来ました。



保護者との

一泊旅行

さる三月十日、保護者との一泊研修が簡保の宿で行われました。あの三月十一日から一年。今まで体験したことのない震災と原発事故に翻弄された一年でしたが、はまなす荘においては利用者・保護者・職員共々、それぞれ何とか無事に乗り切れたことに本

当に感謝の思いで一杯です。今回の一泊研修では、皆それぞれにそんな思いを改めて確認できたように思います。市内に宿泊なんてもったいないという部分もありますが、夜中まで語り合う機会はそうあるものではありません。これからも利用者さんを中心に保護者・職員共々力を合わせ頑張っていきたいと思える研修でした。

功 労 賞

三月二十九日に平成二十三年度功労賞授賞式を実施しました。今回は作業場四か所・男子棟・女子棟・所長特別賞の七名が選ばれました。以下は表彰を受けた方々です。

- さき織り班・篠原めぐみさん
- 紙ちぎり班・長塚恵次さん
- 環境整備班・鈴木理恵さん
- 洗濯班・伊藤光江さん
- 男子棟・青木 清さん
- 女子棟・中尾訓子さん
- 所長特別賞・菊池初恵さん

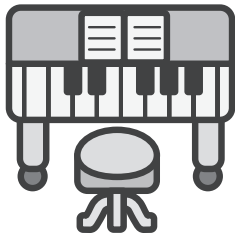


ダンスカンパニーノマド〜s

オルガンで歌おう オルガンで踊ろう



三月三十日に『ダンスカンパニーノマド〜s』の皆さんによる演奏会を開催しました。いわき市出身者やいわき市にゆかりのあるメンバーなど十五名の方が、東日本大震災で被災した方々へ、音楽を



通した支援をしたいと来所してくださいました。二月にも交流会としてプレ演奏会を実施しました。二回にわたる演奏会では、『ポポロ』や『就労支援センターかぜ』の皆さんも見学されました。パイプオルガンの音色に合わせて幻想的な踊りや、素晴らしい歌声に酔いしれました。また、音楽に合わせて一緒に踊ったり、歌ったりする時間もあり、心地良い汗を流しながら楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

平成24年度事業計画

はまなす荘は平成二十一年に新体系に移行し、日中活動は「生活介護事業」・「自立訓練事業」。夜間は「入所支援事業」を実施してまいりましたが、今年度より日中の事業は生活面の介護並びに創作的活動や作業的活動を行う「生活介護事業」のみとなりました。

面会日

2.13

二十四年二月十三日にみはま体育館にて、面会日に合わせて「二月のレクリエーション」を実施しました。利用者・保護者・職員が一体となり、「綱引き」や「玉入れ」など六チームに分かれて熱戦が繰り広げられました。二月の寒さ厳しい日でしたが、どの顔にも笑顔と汗が見られ、綱を引く度に歓声が上がりとともに楽しく過ごせた一日となりました。

四月から通いの生活介護事業にいわき養護学校高等部卒業生一名が加わり、通いの生活介護事業は三名となりました。短期入所・日中一時支援の利用や問い合わせも多い状況が続いており、サービスの質が落ちないよう気を引き締めて支援に当たります。今年度はハード面では引き



した。今後も継続して健康と笑顔のためにレクリエーションを実施していきたいと思

続き施設周辺の舗装や職員駐車場・作業場の環境整備に努めます。

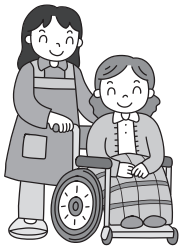
また、ソフト面では職員は利用者さんの信頼を得られるように努めると共に、わかりやすい言葉で接し、意思決定のサポートができた生活の質が高められるよう努め、利用者さんが生き生きと生活できるように支援をめざしたいと思います。

ボランティア 反省会

三月十七日、ボランティア反省会が行われ、ボランティア十名、いわき市社会福祉協議会より一名、海野法人理事長、所長以下職員七名の総数十九名の出席により、二十三年度の活動報告と来年度に向けての意見交換が行われました。



ボランティアの皆様には、利用者の皆様が施設で生活していく上で、職員だけでは提供し難い、余暇活動、地域の方とのふれ合い等、様々なボランティア活動を通して提供して頂き、大変有り難く思っております。今後も、よろしくお願い致します。



「はまなす」コラム

自立訓練係より

平成十一年より始まった自活訓練事業が平成二十三年度をもって一旦終了する事となりました。十三年間に渡り、利用者

の皆さんが調理や買物、外出など地域で暮らすための基本的な能力やルールの取得のための訓練を実施してきました。

障がいがあっても「地域で暮らしたい」、「自由に買物に行きたい」など様々な希望を持って日々「地域生活へ」

の準備をしてきました。

現在までに、四十名程度の方が地域へ巣立ち、様々な悩みを抱えながらも喜びを持って地域で暮らしております。地域生活を支えていただいている皆様へこの場を借りて御礼申し上げます。

花見

今年も四月十七日(火)に諏訪神社(小川町)にて花見が行われました。



当日朝は曇っていましたが、利用者の皆さんの気持ちは通じたのか、雲間から太陽が顔を覗かせ、暖かい日差しの中で花見を行う事が出来ました。

諏訪神社では、満開のしだれ桜(樹齢三百年)を観ながら、美味しい弁当に舌鼓をうち、職員による紙芝居では、利用者の方々も楽しみながら聞いてくれました。花見の後は草野心平歴史文学館を見学し、草野心平さんの人



柄に触れ、皆清しい気持ちで花見を終える事が出来ました。

1年を振り返って

男子棟

昨年の三月十一日に発生した東日本大震災及び福島第一原子力発電所の事故の影響により、五月まで日中活動や外出活動に制限を受けることが多くありましたが、六月から徐々に通常の活動に戻っています。

一昨年の十一月よりかがやきと契約し張り切って出かけていた伊藤昌宏さんが六月中旬に退所し、諸荷ホームに引越しました。現在日に焼けた顔で元気がかがやきの園芸班で活躍中です。

ただ残念なことに九月三十日に、一昨年十二月より共立病院に入院し、三十年以上に



わたり生活を共にした浜津梯治さんが永眠いたしました。高齢になったお母さんが郡山から電車とバスを乗り継いで、

女子棟

改築して一年四ヶ月になりました。従来は、八畳に四人での生活をしていましたが今や個室化し広い部屋にはクローゼットにテレビ付き、ベッドが置かれ快適に生活する事が出来ています。中には長いこと四人部屋での温かいぬくもりの生活が忘れられず、個室を嫌がる利用者さんもあるの

で、中平窪バス停から歩いて迎えに来る姿が目につかびます。

また、十二月に原子力発電所の事故で千葉県に避難していた松浦文秋さんが入所いたしました。



で、ひとりひとりに合った対応を心掛け支援して行くようにしています。棟内は生活の場でもあります。広い廊下を利用して歩行訓練をしたり、作業療法士の指導の下でリハビリや柔軟体操を行い健康維持に努めています。これからも楽しく元気な生活が送れるよう支援していきます。

厨房

昨年七月の異動により、初めて給食の一部業務委託という形式の中での、仕事に就き驚きと、とまどいの日々でした。

はまなす荘には調理設備がなく、はまぎく荘で一括調理したものを車ではまなす荘に運び、盛り付けをして提供するという形式です。

利用者様の高齢化に伴い、粥食やきざみ等の手を加える



方が増えていること、はまぎく荘の調理設備の容量的なこともあり、メニュー的にも固くなった頭を悩ませているのが現状ですが、利用者様が楽しみにしている食事ですので、できる限りの工夫をして、安全でおいしい食事の提供ができるように皆さんの協力を得ながら取り組んでいきたいと思っています。

医務

桜前線北上中の春の陽気に包まれて、震災から一年が経ち、あの恐ろしい津波映像の記憶が少しずつ薄れていく中、また起こりえる災害に備える意識を、もう一度高めなければと思いつつこの頃です。

被災されたご家族の悲しみが、癒える事はないけれど、



みんなで前を向いて、笑顔で一歩ずつ進んでいければと思います。

昨年は、新しい施設に引越したばかりでの震災で、慌しく過ぎた一年でしたが、これからは利用者さんと共に、健康に留意し、楽しい思い出を沢山作っていききたいと思えます。

アニマルセラピー

三月二十九日、動物訪問活動ボランティア「あいあい」のご協力でアニマルセラピーが行われました。

今回連れてきて頂いた動物達はラブラドルレトリバーやチワワなど六匹の犬と猫一匹です。

利用者の皆さんは動物をみると、自然と笑顔になり、体をなでたり、抱っこしたりと犬や猫とのふれ合いを楽しんでいました。

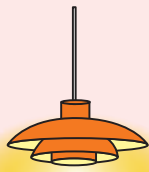


利用者の皆さんからまた来て欲しいとの要望多く、次回訪問を心待ちにしています。

自家発電設置完了報告

今回の震災を振り返ってみると、浄化槽がこわれるなどの問題があったにもかかわらず、利用者さんが特に不安定になることもなく乗り切れた最大の要因は「電気」が確保されていたことだと思います。暗い夜、電気の光は、人に安心

感を与えてくれます。今回の震災では、偶然にも、電気は早い時期から確保できましたが、いつもそうなるとは限りません。そのため、今回は非常用の電源を確保する自家発電装置を整備しまし



た。【できれば、この装置が働くような事態にならなければいいのですが】

トピックス

NewFace Introduction 新入職員紹介



- ① 菊地 貴史(きくちたかし)
- ② 支援員
- ③ 将棋・絵を描くこと
- ④ 分からないことがたくさんありますが、これから宜しくお願ひします。

- ① 名前
- ② 職種
- ③ 趣味・特技
- ④ 抱負



入所者

十二月三十一日付けで松浦文秋さんがはまなす荘入所となりました。

仲良く楽しく、はまなす荘での生活を送ってほしいと思います。

お悔やみ

昭和五十三年四月より入所されていた浜津梯治さんが、平成二十三年九月三十日に永眠されました。

ご冥福をお祈り申し上げます。



編集後記

まだまだ朝晩と寒い日が続くこともありませんが、風邪などをひかないよう健康に気を付けてお過ごしください。

異動職員

猪狩次長が野の花ホームへ異動されました。新しい異動先でも頑張ってください。

寄附

- 松崎 幸一様
 - 中尾 伸二様
 - 吉田 浩様
 - 八巻 英雄様
- (順不同)

